



Title	日米関係（沖縄返還）19(東郷局長ワシントン出張報告 外務省外交史料館レファレンス番号 : H223542)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(4)No.8 公開日 : 平成23年2月18日 外務省外交史料館管理番号 : 2011-0022 CD・DVD番号 : H22-021
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43794
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

東郷局長出張報告

ワシントン

極秘

華盛頓五張報出

44.5.1
半日在

1. 本官 6日外務大臣訪米に備へ、4月24日付
ポジラン・ペイローの趣旨を徹底しおこたせ
4月28、29日ワシントンにおいで半日同僚等
らと懇談せしむ。累次会議に於いて公電
を以て報告せしむるを補途等々下記報告
す。懇談相手方次のとおり。

- (1) 國務省
 - リンソン 次官
 - グリーン 次官補
 - ブラウン 次官補 代理
 - フィン 日本部長
- (2) 大統領府
 - キッペンジャー 大統領補佐官
 - スタイン 補佐官
 - ハルパリン 補佐官
- (3) 閣僚等
 - パッカート 次官
- (4) 陸軍省
 - リーゾア 次官
 - リエナ 次官補

2. 懇談の各相手方の印象につき、懇談の順序に従い
下記す如く次のとおり。

- (1) スタイン 補佐官

安全保障問題に對しは自他共に許す米防務
内に於ける第一人者との自覚あり。(但し同人の「自衛通」
はオズボーン在米公使が同じく「自衛通」であること
は自衛に歴史的感覚を覺えしめるものあるとは
趣を異にする)。核及び自衛兵器に同じく何れも
極めて固い態度を示したるも、右は外務省の同
僚の指針にある audience 向けのものであり、自分と
半日在 向けに委せしめしめは立ちどくことに解決
し得べし等とひそかに洩らし居り。
- (2) ブラウン 次官補 代理

滋味なる人柄から事の真相を極めて明快正確
に捕握し居り。我方提案に對し、如何様なる
取組みにせよ半國の自衛諸者の安全保障不確保
の努力を祈願するものありと云ふこと
では如何に半國を納得せしめ得ざるやと
切々と視くとし、人にその誠意を感せしめる
ものあり。其の故に自由平等の實際問題に

付、充分の用意を以て、我々との折会に臨む、心算を示したり。

(1) リーズ陸軍省

極めて興奮した人物の印象あり。沖縄に同じくは、返還問題につき充分の研究を行つてゐると云ふ事は、グレンの地視状の7においし、沖縄基地の補給等 conventional use に付、甚大なる関心を示したり。

(2) グリーン次官補

若くは幼少の事柄もあり、一般論は別として、核及び自衛隊に内なる実地海は、吾等がブランク地帯に候べきを得ず。

(3) シンソン次官

従来、東京在任中、沖縄問題解決には、先づ旧軍の返還後、基地の地位に付、旧軍側の見解を示し、これを先扶はうと述べていたことでもあり、我々の立場を示した以上、これに対する見解を四示する立場にある。従つて、暫定的に基地を「現状通り」として返還を實現するとの方向に、未練を示しつつも、我々提案に対し、速やかに半割の応答を示す気持を示してゐる。何れにせよ、沖縄問題に同じくは、同次官が半政府部

に於て最も有力なる責任者の一人たるに、強りなく、我々とは同次元に我々の要望を納得せしめて半政府部内取扱いを期待すること加、妥協であらうと思はれる。この点に即し、新軍大入一駐留半士使が同次元の推薦により、何れにせよ、堪能なる人打であるに、是は注目を要すべし。

(1) キンレン次官補

半政府部内に於て、相言なる発言力を行使するやうな面構である。吉野の事から、グレン問題対処が、魚尾の解決に於て、本元往訪の際も、先づグレン、次に旧軍の半軍部、露塔事件に即し、矢次早やに、魚尾を論せしめ、魚尾は印象に残つた。沖縄に同じくは、グレンから懸念しているが、魚尾の本人自身、我々の検討と考慮を遂げ、長らうとの意であった。

(2) ハロッド次官

沖縄問題の理解を充分承知し、是らざるに、是等懸念は、是らざるであり、一般論に終結した。

3. 一般的指摘以下のとおり。

(1) 我々、ホジソン-パイパーは、26日、在任半士使体に手交し、量いたはるべきであるか、其の支持のフロンティアに於ける、是後において、特に國務省は、大段、政府の事務官が

同ハロワの要旨に就いては、概して構造的に討議に依り、
其とは、版に相対する研究と準備を遂げて来たものと
と見られる。

(12) 我々の立場に於いて、核及び自由土庫に因り、何れも概
めて固い反応を示した。その論拠は以下の如く要ら
ず強固なものである。

- 1. 日本が自由土庫の安全保障のため責任を果すとす
る事は、^国米の手足を縛り、乃至は其の邪魔をする。と云ふこと
では、どうしてアメリカ国内に運送を承知させるべきか
と云ふ事がある。
- 2. 日本が運送について、日本の社会がこれを認めることは
さながら、「只承知」をして、日本に何をせよと認
めなければならぬか、と云ふ気持ちになつて居る。
- 3. 運送により、基地の軍事的機能は低下したと見ら
れる場合には、北米軍艦が、これをどう解決するか。北米
軍艦の日本国内に於ける改裝を判断する必要がある。

(11) 1972年中に運送と云ふ時期の長については、懸念相手方
の立場としてコメントする者はなかつた。これに
対し、基地の懸念に因り、今後の社会の進め方、
即ち フォーリン・パシフィック・フォーラムの二長に因りては、
半別は、夫が自由土庫について(特に朝鮮半島
を含む) ~~社会~~ 軍事的見地から充分

満足を得る了解に達した上、核の問題に^対して
よるとする多分と見受けられる。而して自由土庫に
因りたる社会については、フォーリン・パシフィック・フォーラム(12)
の趣旨に2 ~~重~~ 大屋前米前にも社会を進める
用意ありと認められる。

(12) 之れを厚するに、ウナム戦争の現状に拘らず、半別
は沖核問題を本格的に進める気構えあり。6月の大屋
前米の陣には、運送交渉の前途に對し、相違なしの
な方向を見定め得る可能性あり。その意味において
6月の大屋、平野米の会議は概して重要なものとなる
と思はれる。

○ 日本側は、米ナショナル・セキュリティ・カウンシルは、4月
30日初めて日本問題を議題に供するとのことであるが
○ 今回の懸念は、その意味では丁度よい時期に
届に合ったものであつた。